

木々の芽吹きが目には鮮やかな今日の佳き日に、多くのご来賓のご臨席を賜り、このように盛大に、兵庫県立神戸高等学校第百二十三回創立記念式典を挙げていただけますことは、この上もない喜びとするところでございます。高壇からではございますが厚く御礼申し上げます。

この節目の日に合わせて、明日には文化祭が開催されることとなっており、自治会の生徒たちを中心に準備に余念がありません。また、係の先生方だけでなく、PTAの役員の皆様にもお世話になり、大いに盛り上げていただくこととなっており、ありがたく思っています。

さて、本校の歴史を遡りますと、本校は、明治二十九年に兵庫県神戸尋常中学校として開校、明治三十四年に開校した兵庫県高等女学校とともに幾多の変遷を経ながら「神戸一中」「県一高女」として親しまれてきました。この両校が昭和二十三年の学制改革により統合して、現在の兵庫県立神戸高等学校となりました。この間、本校から羽ばたいた約四万五千名の卒業生は、各界各層、国内外のあらゆる分野で活躍されています。

近年では、平成十六年度から文部科学省の「SSH(スーパーサイエンスハイスクール)」の指定を受けるとともに、平成十九年度には総合理学科を設置するなど、理数教育の充実を図ってきました。今年度は新たに、SSH科学技術人材育成重点校にも採択され、兵庫県における高校理数教育に関わる諸機関の中心的役割を果たしていくこととなっています。

普通科については、平成二十七年度から通学区域が拡大され、多くの中学校等から志の高い生徒が集う高校となり、神戸高等学校は新たなページに歴史を刻みはじめています。

本校に入学した鵬雛（ほうすう）、すなわち、鵬（おおとり）の雛（ひな）たちは、勉学にいそしみ、部活動に情熱をたぎらせ、学校行事や自治会の活動に熱く燃え、生涯の友を得、やがては、志を高くして大空へ飛び立っていきます。

かつてこの学び舎で学んだ先輩の皆様、そして今本校に集う千余名の神高生、時は流れ、生徒を取り巻く状況は変わっても、校花（こうか）すなわち学校の花である春蘭の気品と、校木（こうぼく）すなわち学校の木である、楠のたくましさを持ち、「質素剛健」、「自重自治」の四綱領のもと、何事にも真摯に全力で打ち込む姿勢は変わることはありません。

現在、進学や部活動においても県下有数の実績をあげていることは私たちの誇りとするところであります。

これもPTA、同窓会、地域の皆様、そして歴代校長をはじめ旧職員の皆様のご支援の賜と深く感謝いたします。

引き続き、職員、生徒一丸となって、母校、兵庫県立神戸高等学校の伝統を継承するとともに、新たな時代や社会の要請に対応すべく、力強く前進していく所存でございます。

今後とも、本校の教育活動に対しまして、一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成三十一年四月二十九日

兵庫県立神戸高等学校長 世良田 重人